

005 Cacco

作品名	作家名	感想	評価
ラッシュライフ	井坂幸太郎	理屈っぽいポリシーある泥棒、お金が全てと思 い込んでいる美術商、三角関係の結末として妻 殺しを企む男女、同僚を守るためリストラされ る無職男。ある街に住む人々の五つの物語がほ んの少しずつ重なりを見せる。ブックランキン グなどに顔を出す今話題の作家らしい。現実感 があまりない。ファンタジーならこれでもいい がそう呼ぶには何か現実っぽい。中途半端な作 り話という印象。	☆☆
スワロウテイル	岩井俊二 角川文庫	映画「スワロウテイル」の原作本。胸にアゲハ の刺青を持つ主人公グリコは歌手のc h a r a が演じ、c h a r aが歌った主題歌スワロウテ イルバタフライは大ヒットしました。DGグリ コちゃんの名前の由来だということを見 音楽担当はあの小林武史であったので公開時に観 にいこうかと思ひ結局観ないで終わってしまった 作品。本を読んだら近未来のような無国籍の ようななんだかよくわからないお話でした。映 画観なくてよかった。	☆☆
人間失格・桜桃	太宰治 角川文庫	漫画雑誌YOUの中に「人生を変えた本」とい うテーマでの連作漫画があります。今回は太宰 治の「黄金風景」という作品でした。漫画がと ってもよかったので本も読みたくて探したので すが今時は太宰とかってあんまり本屋さんにも 置いてない。図書館にもこの短編が収録されて いる「きりぎりす」はありませんでした。で人 間失格を再読してみました。はしがき、第一、 二、三の手記、あとがきからなる、こんな構成 だとはすっかり忘れていました。巻末の年表も 面白かった。39才という若さで入水自殺。	☆☆☆☆
何もそこまで	ナンシー関 角川文庫	グリコちゃんは彼女の大ファン。薦められて当 時ずいぶん読んだのですが、朝日新聞にナンシ ー関さんについての連載記事が載り再び興味が 出てきて再読。1995、6年頃のテレビ批評集。	☆☆☆☆

何をかいわんや	ナンシー関 世界文化社	<p>どうやら今までの作品を抜粋した本らしい。彼女の消しゴム版画でぜひミスチルも彫ってほしかったけど、ほめられもしかられもしない中途半端ないこタイプのミスチルは彼女の創作意欲を刺激しなかったらしい。残念だ。ナンシー関さんも39才という若さでこの世を去る。自宅とテレビとお菓子が大好きであり外には出なかったらしい。もっともっと生きて消しゴム版画を作ってテレビ批評をして欲しかった。</p>	☆☆☆☆
ドリームタイム	田口ランディ 文藝春秋社	<p>本人を思わせる中年女流作家が主役の短編集。もしかして小説ではなくてエッセイなのかもしれない。彼女の初の長編小説は兄が生きることを拒否して緩やかな自殺を遂げる話だった。実際も近いことがあったように思う。じゃあ田口ランディって人はインランでシャーマンなのかな。面白い。</p>	☆☆☆☆★
縁切り神社	田口ランディ 幻冬舎文庫	<p>短編集。まあまあ。これは普通の小説っぽい。もっと自分が出てるほうが好き。</p>	☆☆☆
オカルト	田口ランディ メディア ファクトリー	<p>短編集。でもこれもエッセイみたい。どうやら彼女の兄は自殺し、それから母親を亡くし、作家デビュー。折り合いの悪かった酒飲みの父親と彼女が残される。今は結婚して子供もいて海に見える東京に近い都市で作家と主婦を兼業しているみたい。このくらい読んでいくといろいろ作家さんの生活もわかってくる。</p>	☆☆☆☆★
ロリキタ	獄本野ばら 新潮社	<p>映画「下妻物語」がとっても面白かったので、一度本も読んでみようと思っていた。でも残念ながらこの話は全然面白くない。「下妻物語」の面白さは深キョンの魅力につきるのかもしれない。「富豪刑事デラックス」も見てます！</p>	☆



じがぞう ↑

「失踪日記」 吾妻ひでお イーストプレス

タツノオトシゴさん推薦図書。うさおが昔から吾妻フリークだったので、この漫画は我が家の本棚にありました。でもまさか吾妻氏がそんな状況に陥ってるとは知らなかった。まるっこいかわいい絵柄と似合わないハードな人生。マンガが描けない、逃げる、自殺未遂、ホームレスになる。彼は預金通帳なんて持って行かなかったわけね。自分自身も含めてどうにでもなれって開き直りが凡人にはないところかな。マンガが描けない、逃げる、自殺未遂までは一緒でも他人に自分をよく見せたい気持ちが強そうなつげ義春氏はホームレスにはなれないんじゃないかと思う。どこかの女に頼りそう。二度の失踪事件があってもどうやら奥さんは吾妻氏を待っていた。元アシさんらしいが奥さんが夫の失踪をどう捕らえていたのか知りたい。奥さんもマンガでその辺の事情を描いてほしいなあ。ついでに吾妻氏の実際の風貌も見たい。あんがいつげさん風のいい男だったりして。ホームレス以後はアル中となり、強制入院。今彼はリハビリ生活7年目になるらしい。どう人生が転がってもおかしくなかった。冬の山で死んでも、配管工事のプロになっても、再びホームレスになっても。人生いろいろ。実話マンガは面白い。



「本気で言いたいことがある」 さだまさし 新潮新書

年間で映画を 100 本も観ちゃう**かずくん**は長年のさだまさしファンでもあります。ファンクラブにだってちゃんと入ってる。さだまさしのコンサートと言えしゃべりの面白さには定評があります。重いテーマであっても笑いを取り入れながら聞かせるすべを心得ている人のようです。左写真は**かずくん**へのサービスです！「秋桜」とか「償い」とかは歌詞を読んだだけで泣けそうです。前にミスチルの桜井氏はさださんの「関白宣言」について「『姑小姑かしこくこなせ たやすいはずだ 愛すればいい』というフレーズは言い得て妙で素晴らしいですね」と語っています。「みんなを愛すれば万事丸くおさまる、簡単だよって言ってるんですね。でも『愛してる』を伝えるのはそんなに簡単なことじゃない。そもそも僕には人は簡単に分かり合えるもんじゃないって出発点があるんですね」と自分との差を自ら分析したりもしています。さだまさしは生きるすべを心得ている人、桜井くんは生きるすべを模索している人、そんな感じでしょうか。

